

支部名

大阪府支援教育研究会 堺支部（百舌鳥支援学校）

タブレット端末が一人一台配布されたことで、児童生徒への支援方法がぐんと広がったように感じています。

その一つに、「することカード」というアプリケーションを使用した事例を紹介します。

本校のタブレット端末には、「することカード」というアプリケーション（以下アプリ）が使用できるように設定されています。

「することカード」とは、予定表を作ることができるアプリです。アプリ内には既存のカードが入っていますが、必要なカードは、写真や文字を入れて自由に作成することもできるため、個々に応じたオリジナルの予定表が完成します。

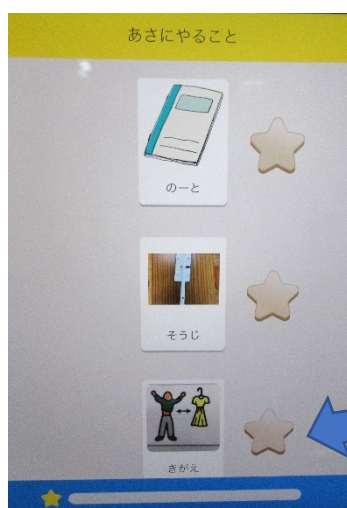
また、予定表内のカードをタップすると音声が出るため、視覚的にも聴覚的にもわかりやすいです。

そして、予定の順番などが変更した場合、すぐに予定表を作り変えることができる点も支援のスムーズさに繋がります。

このアプリを使用している中学部の生徒たちは、自らカードのイラストを見たり、音声を聞いたりして予定を確認しています。担当者の言葉かけを待つことが多かった生徒が、自ら予定表を確認し、次の行動へ切り替えることができるようになってきました。

記事タイトル

タブレットを使って、予定を示そう！



予定が終わると、右の星をタップ！
一つひとつの終わりも変わりやすいです
星がすべて集まると、プレゼントがもらえます。



必要なカードは
写真を撮り、
文字と音声を入れて
作ることができます。



支部名

大阪府支援教育研究会 堺支部（上神谷支援学校）

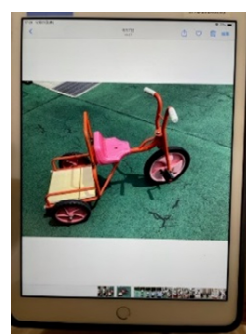
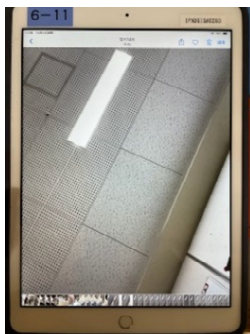
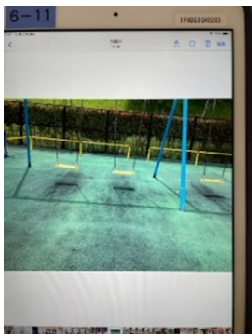
児童・生徒一人ひとりにタブレットが配布され、各教科の授業やクラスの時間、休み時間等、校内における様々な場面で、タブレットの活用をしています。

今回は、ある学年での使用活用の様子を紹介します。

目的：子どもたちが、タブレットを前にして、自分自身でどのように活用していくのかを観察し、今後の使用に向けての参考にする。

方法：事前に、タブレットの使用方法について、簡単に説明した後、特にアプリなど何も指定せず、クラスの時間や休み時間に、自由に使用するようにしました。

ある児童は、カメラ機能を使い、「自分の好きな物」をたくさん撮っていました。発語の難しい児童ですが、「ここへ遊びに行きたい」「この先生が好き」「お気に入りの三輪車はこれだよ」と言わんばかりに、撮影した写真を次々と教員に見せてくれました。



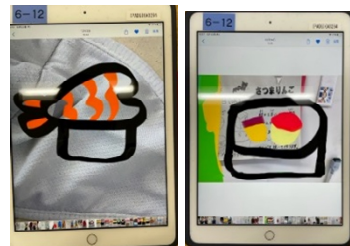
本児は、普段は絵・写真カードやジェスチャーで思いを伝える児童ですが、学校で用意された絵・写真カードでは、彼が自分を表現するには不十分だったのではないかと気づかされます。彼が見せる写真は、それ以外のものばかりだったからです。写真を撮り、教員に見せることで、彼は、その瞬間思ったこと、感じたことをすぐに伝えられる喜びを少し感じたのではないかと思います。

伝えたい気持ち、伝わってほしいという思いは、コミュニケーション能力を育むのに大きな役割を果たします。タブレットもまた、その一端を担える可能性があるのかもしれない。

カメラ機能の活用で驚かされた例はもう一つあります。別のある児童は、絵を描くのが好きで、描き始めれば、1日で紙に数十枚の絵を描き上げます。本児にタブレットを渡すと、まず、自分の描いた絵をカメラ機能で写真に収めていました。気づいた頃には、彼のタブレットの写真フォルダは、まさにギャラリーと呼べるものとなっていました。

そんな本児に、撮った写真に色を塗る方法（ペイント機能）を教えました。すると、白地の紙やホワイトボードに動物や食べ物などを描いては、カメラで撮り...、それを何度も繰り返していました。紙ならば必ず色を塗るのですが、紙は白いままでした。しかし、色を塗らずに終わるわけではなく、タブレットのペイント機能を使って、撮影した写真に色を塗っていました。なるほど、そういうことかと思ったのも束の間、次に本児は、白いマスクを至近距離で撮る、薄茶色の床を撮る...今度は何をするのか見守りました。本児は、マスクや床の写真を使って、食べ物や動物を描き始めたのです（写真）。また、別の機会には、本児の好きな献立が出る日、献立表をカメラで撮り、そこに絵を描き始めたのです（写真）。

タブレットを使ったその表現に、本児の目の前には、表現に活用できるものが溢れているのだと感ずることがきました。そして、本児が自分を感じた、その瞬間のときめきを表現するツールとしてもタブレットを活用してくれたのです。



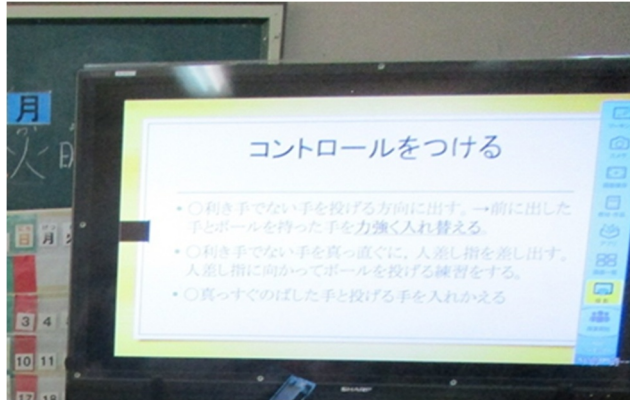
今回の取り組みは、一部の活用の紹介ですが、教員の少しの支援で、子どもたちが自分自身の力で、タブレットを活用していく姿にとっても驚かされました。タブレットには、様々な機能が搭載され、活用の幅も広いですが、発語の難しい児童にとってのコミュニケーションツール、自己表現の幅を広げるツールとしても使用できることを実感できました。

支部名

大阪府支援教育研究会 堺支部（小学校支援学級）

支援学級における ICT 活用の取り組みについて（例）

- 1 , 支援学級の体育の時間に、ボールの投げ方について、
パワーポイントをタブレットからテレビに映して説明しています。



- 2 , 登校に不安のある児童と、チームスを使ってオンライン授業をしているところです。



- 3 , パソコンルームでタイピングの練習をしたり、インターネットを使って自分の
知りたいことを調べたりしています。



他にも、わかばタイム（自立活動で支援学級の児童が集まる時間）に、支援学級の児童全員のタブレットと支援学級担任のタブレットをチームスでつないで、チャットをしたり、オンライン授業をしたりしました。

記事タイトル

支援学級

ICT活用の取り組みについての紹介